

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成28年10月】

■調査概要（データ対象期間：平成28年10月1日～10月31日）

- 調査期間：平成28年11月1日～11月18日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査
- 回収状況：建設業23企業、製造業23企業、卸売業13企業、小売業35企業
飲食業16企業、サービス40企業（運輸、不動産仲介業を含む）
<合計150企業>
- 調査項目：10月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI・水準DIともにマイナス幅が縮小

1. 業況判断

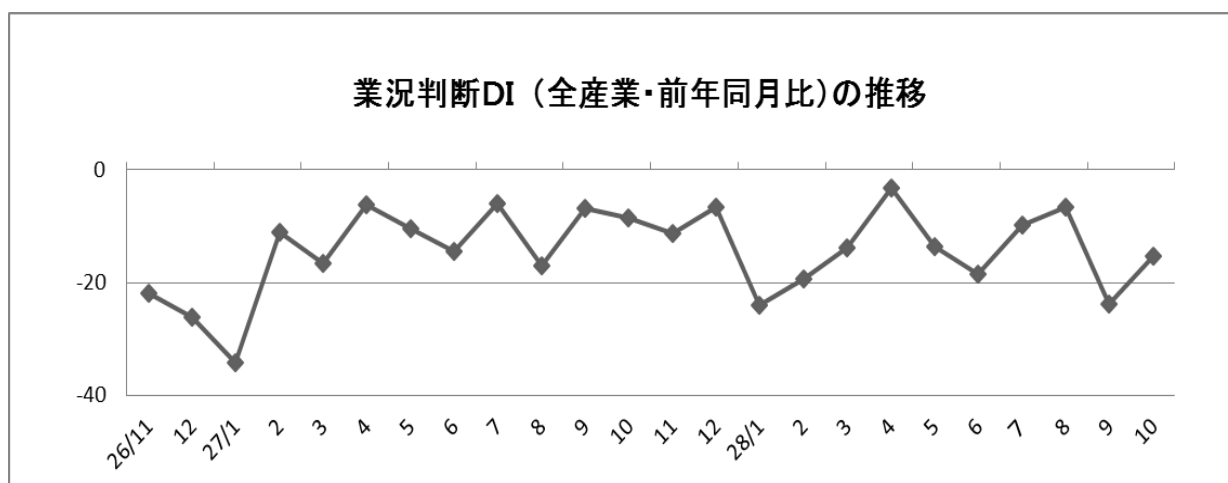
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲23.8）よりマイナス幅が8.4ポイント縮小し、▲15.4となった。業種別では、飲食業、サービス業、小売業、建設業はマイナス幅が縮小した。製造業、卸売業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲31.1）よりマイナス幅が15.1ポイント縮小し、▲16.0となった。業種別では、小売業、飲食業、サービス業、建設業はマイナス幅が縮小した。卸売業は横ばいとなった。製造業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	13.3 (6.0)	58.0 (64.2)	28.7 (29.8)	▲15.4 (▲23.8) ↗	11.3 (6.6)	61.4 (55.7)	27.3 (37.7)	▲16.0 (▲31.1) ↗
建設業	8.7 (4.8)	60.9 (66.6)	30.4 (28.6)	▲21.7 (▲23.8) ↗	4.3 (0.0)	74.0 (71.4)	21.7 (28.6)	▲17.4 (▲28.6) ↗
製造業	17.4 (13.0)	43.5 (56.6)	39.1 (30.4)	▲21.7 (▲17.4) ↘	13.0 (17.4)	47.9 (43.5)	39.1 (39.1)	▲26.1 (▲21.7) ↘
卸売業	7.7 (0.0)	46.1 (84.6)	46.2 (15.4)	▲38.5 (▲15.4) ↘	7.7 (7.7)	61.5 (61.5)	30.8 (30.8)	▲23.1 (▲23.1) →
小売業	17.1 (5.9)	54.3 (61.7)	28.6 (32.4)	▲11.5 (▲26.5) ↗	17.1 (5.9)	54.3 (44.1)	28.6 (50.0)	▲11.5 (▲44.1) ↗
飲食業	18.8 (6.3)	49.9 (49.9)	31.3 (43.8)	▲12.5 (▲37.5) ↗	6.3 (0.0)	56.2 (50.0)	37.5 (50.0)	▲31.2 (▲50.0) ↗
サービス業	10.0 (4.5)	75.0 (68.2)	15.0 (27.3)	▲5.0 (▲22.8) ↗	12.5 (6.8)	70.0 (63.7)	17.5 (29.5)	▲5.0 (▲22.7) ↗

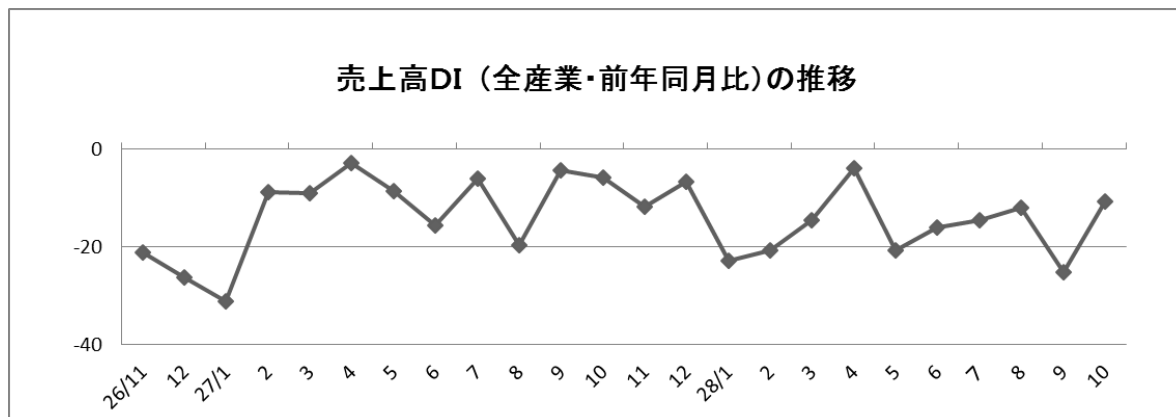
()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲25.1）よりマイナス幅が14.4ポイント縮小し、▲10.7となった。業種別に見ると、サービス業はマイナスからプラスに転じた。飲食業、小売業、製造業はマイナス幅が縮小した。卸売業、建設業はマイナス幅が拡大した。

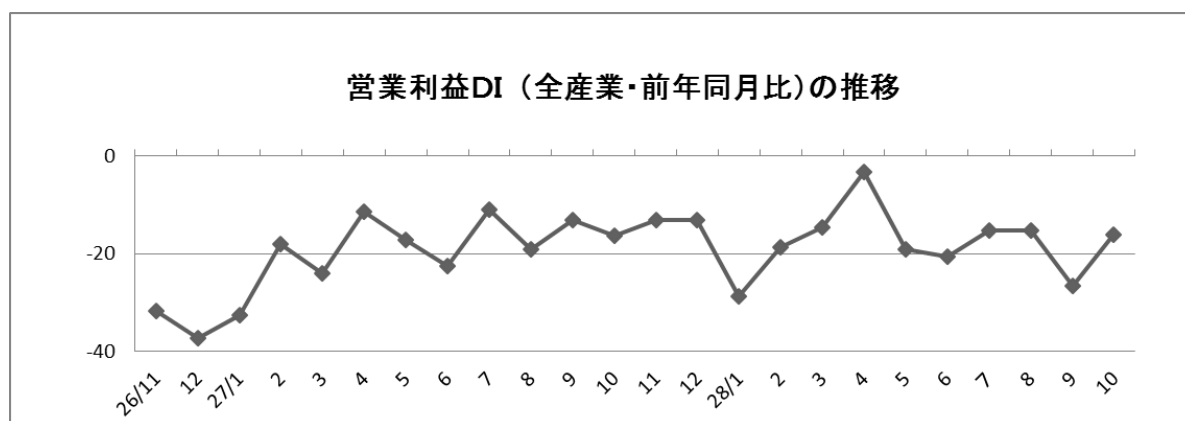


【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	27年10月	11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
全 体	▲ 5.8	▲ 11.8	▲ 6.6	▲ 22.7	▲ 20.7	▲ 14.5	▲ 3.9	▲ 20.6	▲ 16.0	▲ 14.6	▲ 12.0	▲ 25.1	▲ 10.7
建 設 業	▲ 4.0	▲ 20.9	▲ 16.0	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 16.7	▲ 12.0	▲ 28.0	▲ 20.8	0.0	▲ 9.5	▲ 9.6	▲ 21.7
製 造 業	▲ 40.0	35.0	0.0	▲ 20.8	▲ 19.1	▲ 9.5	4.4	▲ 28.6	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 5.0	▲ 26.1	▲ 17.4
卸 売 業	▲ 6.6	▲ 18.7	▲ 21.5	▲ 28.6	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 15.4	▲ 25.0	7.1	▲ 30.8	▲ 28.6	▲ 15.4	▲ 23.1
小 売 業	▲ 18.1	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 43.7	▲ 34.3	▲ 18.1	2.9	▲ 17.1	▲ 24.2	▲ 17.7	▲ 18.2	▲ 29.4	▲ 8.6
飲 食 業	7.2	▲ 28.6	▲ 6.2	▲ 6.2	▲ 38.5	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 35.8	▲ 33.4	▲ 5.5	▲ 43.7	▲ 18.8
サービス業	13.1	▲ 9.5	4.3	▲ 10.3	▲ 4.7	▲ 11.4	0.0	▲ 7.0	▲ 13.3	▲ 10.9	▲ 9.1	▲ 25.0	5.0

3. 営業利益DI（前年同月比）

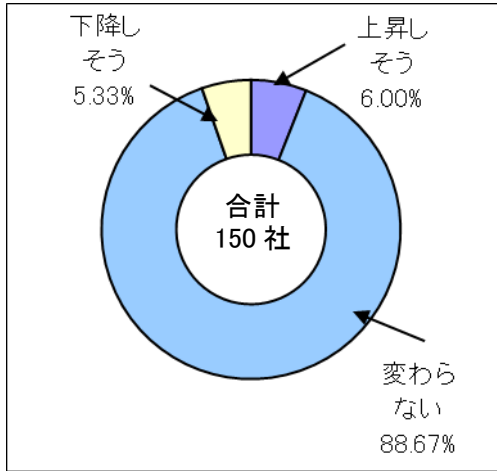
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲26.5）よりマイナス幅が10.5ポイント縮小し、▲16.0となった。業種別に見ると、サービス業はマイナスから0となり、卸売業、小売業、飲食業、建設業はマイナス幅が縮小した。製造業は横ばいとなった。



【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

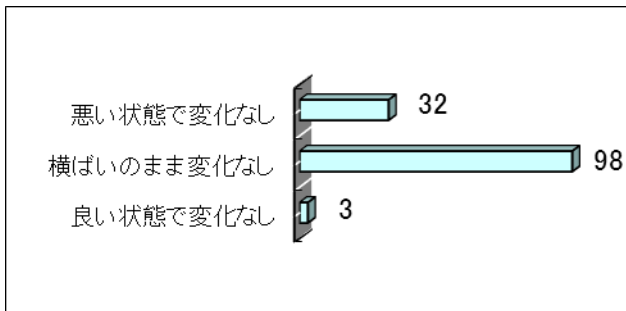
	27年10月	11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
全 体	▲ 16.3	▲ 13.1	▲ 13.2	▲ 28.7	▲ 18.7	▲ 14.5	▲ 3.2	▲ 19.2	▲ 20.7	▲ 15.2	▲ 15.3	▲ 26.5	▲ 16.0
建 設 業	▲ 36.0	▲ 20.8	▲ 32.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 29.1	▲ 4.0	▲ 24.0	▲ 25.0	▲ 8.7	▲ 19.0	▲ 23.8	▲ 21.7
製 造 業	▲ 30.0	20.0	▲ 5.3	▲ 25.0	▲ 9.6	▲ 9.5	▲ 8.7	▲ 14.3	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 30.5	▲ 30.5
卸 売 業	0.0	0.0	▲ 14.3	▲ 28.6	31.3	13.3	30.8	▲ 16.6	0.0	▲ 7.7	▲ 21.4	▲ 23.1	▲ 7.7
小 売 業	▲ 42.4	▲ 30.6	▲ 9.4	▲ 34.3	▲ 34.4	▲ 18.1	5.9	▲ 22.8	▲ 27.3	▲ 8.9	▲ 15.1	▲ 29.4	▲ 14.3
飲 食 業	0.0	▲ 28.6	▲ 25.0	▲ 31.2	▲ 46.2	▲ 20.0	▲ 33.4	▲ 46.7	▲ 42.9	▲ 46.6	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 37.5
サービス業	8.7	▲ 9.5	▲ 4.3	▲ 17.9	▲ 4.6	▲ 13.7	▲ 6.7	▲ 6.9	▲ 17.8	▲ 13.0	▲ 15.9	▲ 15.9	0.0

◇ 向こう3ヶ月の見通し ◇



○平成28年11月～平成29年1月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ0.04ポイント増加し6.00%、「下降しそう」が1.29ポイント減少し5.33%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲8.7)、製造業(4.4)、卸売業(0.0)、小売業(0.0)、飲食業(▲12.5)、サービス業(10.0)であった。

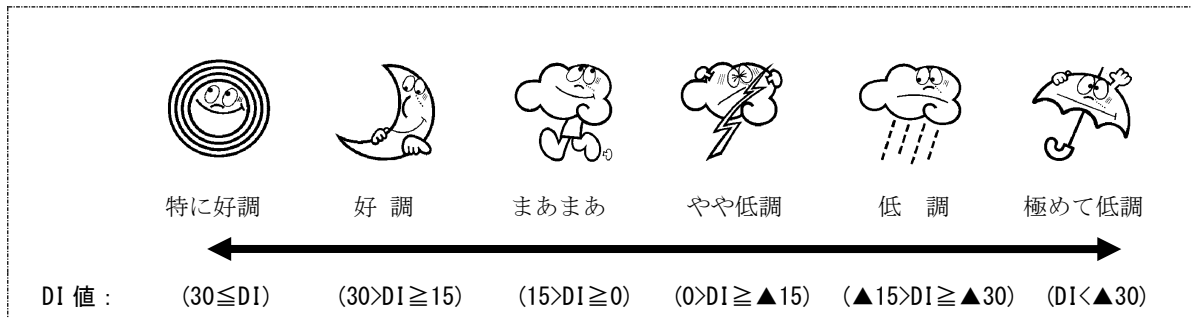
➡「上昇しそう」では、「今後受注が増えていきそうなため」(建設業)、「受注増加により在庫が消化されるため」「客先の仕事量が増え、受注増加が見込めるため」(製造業)、「年末年始は一番の繁忙期のため」「受験用の証明写真の需要が伸びると予想されるため」「現在仕掛け中のプロジェクトについて納品・回収が見込めるため」(サービス業)といった声が寄せられた。



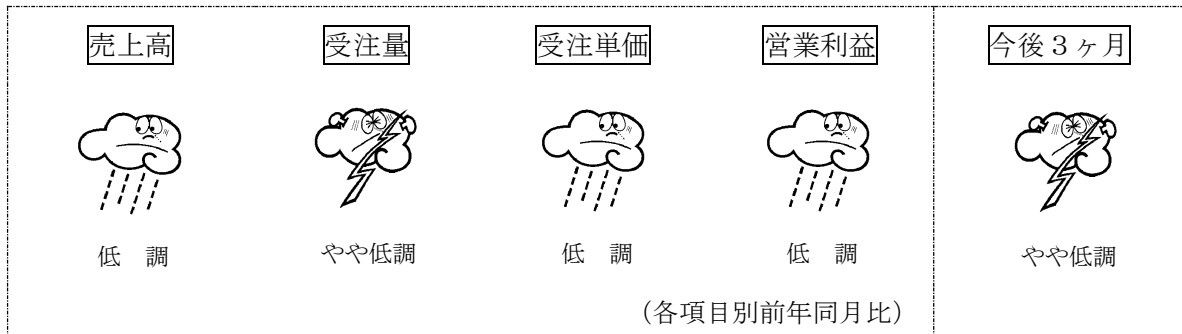
➡「下降しそう」では、「先行き不透明なため」「公共工事がおおよそ終わったため」(建設業)、「売上が伸びる要素が見当たらないため」(小売業)、「例年この時期は売上が落ち込むため」(飲食業)、「例年11月は売上が下がっているため」「求職者支援訓練応募者数低迷のため」(サービス業)といった声が寄せられた。

業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	27年10月	11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 4.0	▲ 20.9	▲ 16.0	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 16.7	▲ 12.0	▲ 28.0	▲ 20.8	0.0	▲ 9.5	▲ 9.6	▲ 21.7
受注量	▲ 16.0	▲ 29.2	▲ 28.0	▲ 28.0	▲ 44.0	▲ 16.7	▲ 16.0	▲ 28.0	▲ 25.0	▲ 8.7	▲ 38.1	▲ 4.7	▲ 13.1
受注単価	▲ 20.0	▲ 8.3	▲ 8.0	▲ 20.0	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 16.0	▲ 16.0	▲ 8.3	4.4	▲ 19.0	▲ 23.8	▲ 26.1
営業利益	▲ 36.0	▲ 20.8	▲ 32.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 29.1	▲ 4.0	▲ 24.0	▲ 25.0	▲ 8.7	▲ 19.0	▲ 23.8	▲ 21.7
見通し	▲ 8.0	▲ 16.7	▲ 4.0	▲ 12.0	8.0	0.0	▲ 4.0	▲ 4.0	12.5	4.3	▲ 4.8	9.5	▲ 8.7

<経営者の目・見方・etc>

鉄工

- ・夏ごろまでの状況より引き合いが多くなった感じがある。来年に向けて受注金額の改善を行いたい。
- ・仕事量は出始めているが、図面の決まりの遅さなどによる工程遅れがあり、大きな課題となっている。

土木工事

- ・特別に業績UPに繋がる要素は見当たらない。下半期に発注量が増えてこないと企業体力は回復しないので、11月、12月は大事な時期である。

電気工事

- ・大型工事物件が全くない状況が続いている。年末に向けて受注を増やしたい。

管工事

- ・売上は多少伸びたが営業利益が上がらない。大手主導型の流れが増々加速し、地方経済は良くならない。

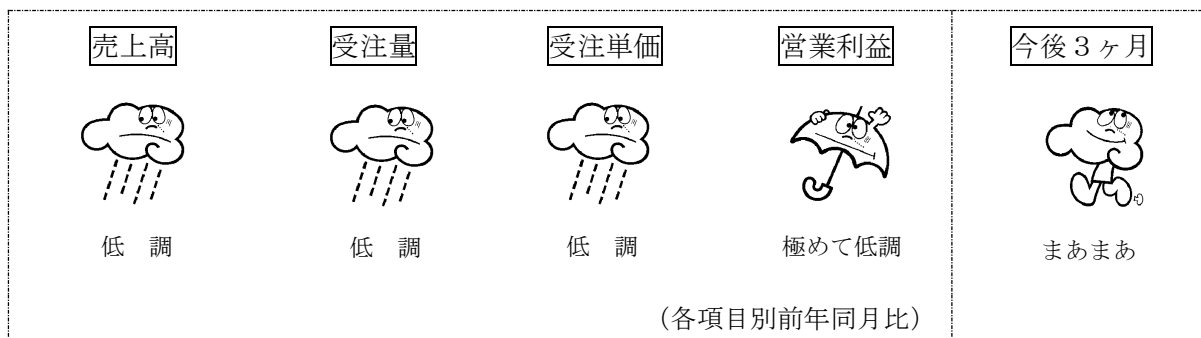
建築工事

- ・公共工事もそれなりに入札はあるが、人材確保はまだ難しい。

総合建設

- ・松本市が11月1日より入札制度を変更した。主な変更は失格基準額を固定制から変動制に変えたことである。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	27年10月	11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 40.0	35.0	0.0	▲ 20.8	▲ 19.1	▲ 9.5	4.4	▲ 28.6	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 5.0	▲ 26.1	▲ 17.4
受注量	▲ 30.0	20.0	▲ 5.3	▲ 12.5	▲ 19.1	▲ 4.8	▲ 4.4	▲ 28.6	0.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 39.1	▲ 26.1
受注単価	▲ 25.0	▲ 10.0	▲ 21.1	▲ 25.0	▲ 14.3	▲ 28.5	▲ 17.4	▲ 14.2	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 26.1	▲ 17.4
営業利益	▲ 30.0	20.0	▲ 5.3	▲ 25.0	▲ 9.6	▲ 9.5	▲ 8.7	▲ 14.3	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 30.5	▲ 30.5
見通し	▲ 10.0	5.0	▲ 15.8	4.2	14.3	▲ 33.3	8.7	4.7	▲ 5.0	10.0	▲ 10.0	▲ 8.7	4.4

<経営者の目・見方・e t c>

菓子	・野菜の高騰のため、嗜好品であるお菓子の売上が低迷している。
精密機械	・やや上向きの動きがみられる。
小型情報機器組立	・次期米国大統領ドナルド・トランプ氏の動きがわからないため、先行きが不安である。
酒類	・9月の長雨の影響か、観光客の入れ込みが悪く、例年の紅葉シーズンの盛り上がりがなかった。涼しくなり清酒の需要期に入ってきたため、ひやおろしをはじめとする季節商品の動きは9月に引き続き良い。また純米酒、純米吟醸酒の需要があり引き続き伸びているが、清酒の全体量としては微減状態である。外国人観光客は相変わらず多く、日本の文化、伝統、清酒への関心も高い。

3. 卸売業



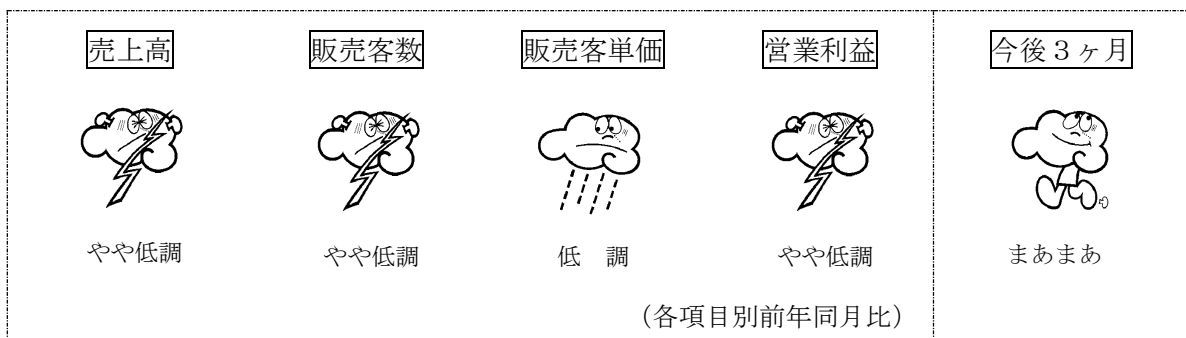
【項目別DIの推移】

	27年10月	11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 6.6	▲ 18.7	▲ 21.5	▲ 28.6	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 15.4	▲ 25.0	7.1	▲ 30.8	▲ 28.6	▲ 15.4	▲ 23.1
販売客数	▲ 13.3	▲ 25.0	▲ 28.6	▲ 35.7	▲ 6.3	▲ 6.7	▲ 23.1	▲ 16.7	▲ 7.2	▲ 30.8	▲ 14.3	▲ 15.4	▲ 23.1
販売客単価	▲ 6.6	▲ 25.0	▲ 21.5	▲ 42.9	0.0	0.0	▲ 7.7	▲ 16.7	0.0	▲ 7.7	▲ 21.4	▲ 7.7	0.0
営業利益	0.0	0.0	▲ 14.3	▲ 28.6	31.3	13.3	30.8	▲ 16.6	0.0	▲ 7.7	▲ 21.4	▲ 23.1	▲ 7.7
見通し	6.7	▲ 12.5	▲ 21.4	7.1	0.0	0.0	0.0	8.3	▲ 7.1	0.0	7.1	▲ 7.7	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

- 土産品
 - ・松本地区の状況は相変わらず低迷している。土産品の売上が増加する紅葉シーズンだが、秋の長雨などの影響もあり厳しい。
- 青果
 - ・9月の曇天、長雨、台風等の影響から、野菜の高値が続いた。マスコミ等でも報道があったが、これは11月も続く見込みで野菜、果物共に高値の月であった。
- 機械工具
 - ・全般下降気味である。良い話はなく、先行き不透明は変わらずである。
 - ・良いところと悪いところが混在している。
- 金属製品
 - ・前月と状況に変わりはなく、地元大型案件はない。値上げ前の駆け込み需要が若干あるという状況に留まっている。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	27年10月	11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 18.1	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 43.7	▲ 34.3	▲ 18.1	2.9	▲ 17.1	▲ 24.2	▲ 17.7	▲ 18.2	▲ 29.4	▲ 8.6
販売客数	▲ 18.2	▲ 11.2	▲ 9.4	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 24.2	▲ 3.0	▲ 11.4	▲ 24.2	▲ 11.8	▲ 6.1	▲ 29.4	▲ 5.7
販売客単価	▲ 27.2	▲ 22.2	▲ 15.7	▲ 15.7	▲ 37.5	▲ 9.1	0.0	▲ 22.8	▲ 18.1	▲ 17.7	▲ 12.1	▲ 23.6	▲ 22.9
営業利益	▲ 42.4	▲ 30.6	▲ 9.4	▲ 34.3	▲ 34.4	▲ 18.1	5.9	▲ 22.8	▲ 27.3	▲ 8.9	▲ 15.1	▲ 29.4	▲ 14.3
見 通 し	▲ 15.2	▲ 2.8	0.0	▲ 3.1	0.0	6.1	2.9	▲ 2.8	0.0	▲ 2.9	▲ 6.1	▲ 5.9	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

- 印章
 - ・ある記事で「その街の顔になれるような、地域にふさわしい店を、そしてその店にふさわしい人が働いているといえるような人づくりを目指している」という文章があった。松本の商店街や商店主にも通じる言葉として書き留めておきたい。
 - ・郵便局でも印章の取扱いが始まり、個店の先行きが不安である。
- 化粧品
 - ・人の賑わい、特に観光客が増えてきた印象がある。街に賑わいがあることは活気が出ることに繋がる。
- 書籍・木のおもちゃ
 - ・来店しても見るだけで帰るお客様が増えているのが現状で、厳しい状態であるが、クリスマス商戦に向けて対策を考えている。
- 観光物産
 - ・10月は紅葉の時期で期待していたが、外国人の食事での利用が減少した。立ち寄り、日本人の団体、1団体当たりの人数共に減少傾向にある。
- 住宅機器
 - ・お客様である工務店は、仕事が忙しい所と仕事がない所との差が極端についている状況である。

自転車
ショッピングセンター

・売上高は前年比と変わらずであった。
・10月は前年に対して休日が多く、また月末から気温も順調に低下してきたため前年を上回る結果となった。ただし業界的には衣料品の売上低迷が続いており、年末商戦に向けて不安が残る。今後は独自性のある商品を打ち出すことで市街広域からの集客が図れるかがポイントになる。

手芸材料
パン

・海外からの観光客が多かった。
・先行き不透明である。どちらかといえば悪いのではないか。
・販売促進をすることができたので目標の売上をクリアできた。寒くなると客足が多い時間帯が変わるので対応していきたい。

おやき

・東京で開催された食品物産展では出店した98店中トップで完売できた。これからの商売にこの経験を生かして発展させていきたい。

菓子

・9月は観光客の入り込みは少なかったが、10月は観光客が多かった。四柱神社祭り、信州・松本そば祭り等は人を呼ぶイベントである。来年の今頃は(仮称)イオンモール東松本がオープンし、車で松本に来る観光客に道路混雑で二度と行きたくない街と思われるのではないかと不安である。

生鮮食品

・郊外で催し物があったため市内は静かであった。寒くなると気分も落ちるため年末までは静かな営業が予想される。

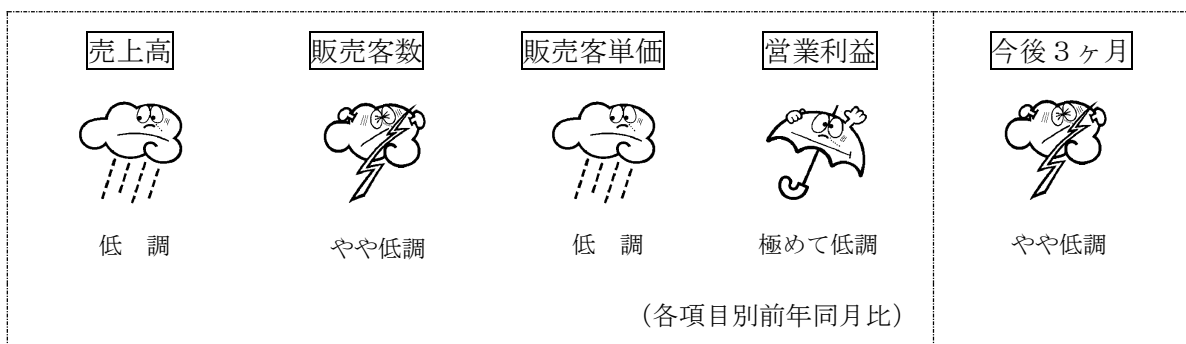
文具

・商品の動きが良かった。受注も多くなっているのでこのままの勢いで年末年始を迎えたい。

陶磁器

・天候も安定し、土日が5回もあったので例年より客数、客単価ともに上昇した。自社の恒例イベントも天候に恵まれ、予定通りの成果を上げることができた。建築中の商業施設から出店の案内が回ってきたが難しい問題だった。

5. 飲食業



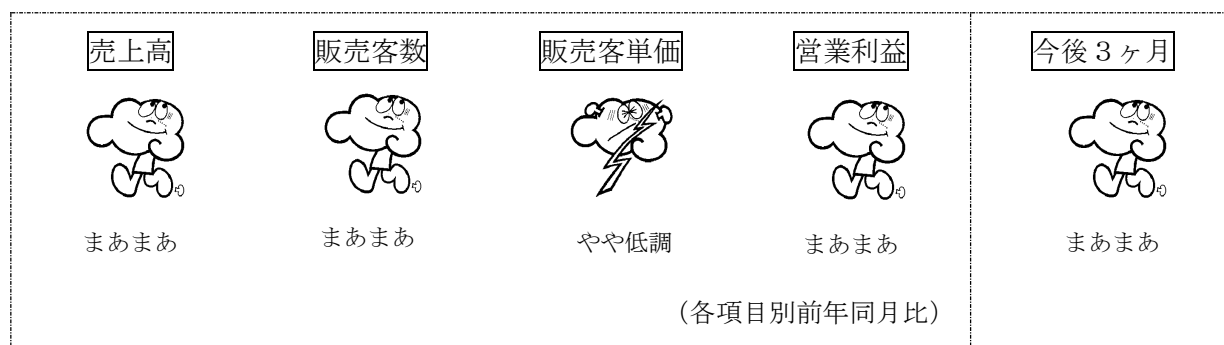
【項目別DIの推移】

	27年10月	11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	7.2	▲28.6	▲6.2	▲6.2	▲38.5	▲20.0	▲20.0	▲40.0	▲35.8	▲33.4	▲5.5	▲43.7	▲18.8
販売客数	0.0	▲28.6	▲12.5	▲31.2	▲46.1	▲13.4	▲20.0	▲40.0	▲42.9	▲33.4	▲5.6	▲31.2	▲12.5
販売客単価	▲7.1	▲28.6	▲18.7	▲12.5	▲30.8	▲33.3	▲20.0	▲20.0	▲28.6	▲26.7	▲11.1	▲25.0	▲25.0
営業利益	0.0	▲28.6	▲25.0	▲31.2	▲46.2	▲20.0	▲33.4	▲46.7	▲42.9	▲46.6	▲16.7	▲50.0	▲37.5
見通し	0.0	▲7.2	▲25.0	6.2	15.4	▲6.6	0.0	▲20.0	7.2	6.6	▲16.7	▲12.5	▲12.5

<経営者の目・見方・etc>

- そば
 - ・秋の観光シーズンになり松本に来る観光客が増え、9月の伸び悩みが取り戻せたため、好調を維持できた。このまま11月も期待したい。
- 郷土料理
 - ・信州・松本そば祭りの連休は平年並みであった。観光客も落ち着き始めた。今月は予約の宴会も減少しておりメニュー単価も節約傾向。個人消費の低迷を強く感じさせられた。
- 仕出し料理
 - ・大規模な商業施設の建設が進み、次第に全容の大きさがわかってきた。松本市の商業、とりわけ生鮮食品、衣類等に大きな影響が出ることが予想される。日照時間、長雨の影響で青果、鮮魚の高騰が続いている。
- 料理
 - ・前年と比べお客様の動きが悪く流れを変えることが出来ない月だった。
 - ・茸の時期にたくさんの収穫があり、お客様に提供することができた。このまま冬に突入したいが、毎年忘年会の需要が減少しているのが気になる。
- レストラン
 - ・各家庭で飲食に使う金額がどんどん減少している。常により付加価値のあるものを提供していかなければならない。
- 寿司
 - ・10月を含めて、特に今年に入ってから大きくお客様の流れが変わっていると感じる。繁忙月と閑散月が入れ替わっているような印象も受ける。その一方で変わらず信州・松本そば祭りなどのイベントの集客率は強く、今後も地域一体となった取り組みが必要となると思う。
 - ・信州・松本そば祭りは全国規模の素晴らしいイベントになってきた。しかし相変わらず交通渋滞、無断駐車、ゴミの放置など迷惑なことが多い。主催者側は現場の事ばかりに気を取られるだけでなく、外側の事も考えて運営を進めてほしい。
 - ・イベントはあったがその割に客数が伸びなかった。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	27年10月	11月	12月	28年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	13.1	▲ 9.5	4.3	▲ 10.3	▲ 4.7	▲ 11.4	0.0	▲ 7.0	▲ 13.3	▲ 10.9	▲ 9.1	▲ 25.0	5.0
販売客数	8.7	▲ 9.5	2.1	▲ 23.1	▲ 2.3	▲ 6.8	▲ 2.3	▲ 11.7	▲ 15.5	▲ 8.7	▲ 4.5	▲ 22.7	0.0
販売客単価	8.7	▲ 4.7	4.3	▲ 23.0	0.0	▲ 2.2	4.5	9.3	▲ 4.4	▲ 4.4	4.5	0.0	▲ 2.5
営業利益	8.7	▲ 9.5	▲ 4.3	▲ 17.9	▲ 4.6	▲ 13.7	▲ 6.7	▲ 6.9	▲ 17.8	▲ 13.0	▲ 15.9	▲ 15.9	0.0
見通し	2.2	0.0	0.0	2.6	0.0	▲ 2.3	6.7	2.3	2.2	0.0	4.6	9.1	10.0

<経営者の目・見方・e t c>

自動車整備 ・板金塗装	・秋がないままに冬が来る勢いでスッキリした秋晴れもない。人の気持ちも車の乗り換えの気分になれない様に感じる。景気もあまり良くないため、先行きが不安である。
獣医	・通常の獣医科は総合臨床医である。あらゆる科目の内科的、又は外科的治療や、歯科、薬剤等にかけても幅広い知識が要求される。今年は特に外科部分の診療が多かったため収益が増した。
ペットサービス	・来客数、売上高ともに前年度を上回った。新しいサービスにより客単価が上がった。11月から新システムの導入により、さらに来客数と売上高UPを目指したいと思う。
写真	・早くも大学受験用、高校受験用の撮影が動きだした。
温泉旅館	・紅葉の時期のため、松本ならではの景色のコントラストを見に来る観光客が来所した。
ホテル	・例年秋の9月・10月・11月については、一般宴会にて周年記念・祝賀会などの開催が多い時期であるが、特に今年の10月は需要が高かった。 ・相変わらず宿泊は好調である。特に10月はインバウンドの宿泊利用が多い月。宴会も10月、11月はまずまずである。
タクシー	・紅葉シーズンであったが客数は昨年より少なかった。燃料価格が上昇気味となってきた。
機械設計	・仕事量はそれなりにあるがコストが厳しい。
理容	・全体的に横ばいの状態である。
専門学校	・職業訓練の受講者数は低迷しているが、企業側の求人需要が増加しているため、職業訓練修了者の就職率は良好である。当校が行っている有料職業紹介事業による就職者も僅かながらに伸びている。
ソフトウェア	・JAVA、ネット等のプログラムに関する引き合いが一時期に比べて多い。ただしそうしたもののほとんどが大手元請けからの発注になるため、独自のフレームワークを使用したりインターネットに接続できない開発場所での常駐作業になる。ある程度経験のある技術者でないと困難である。
保険	・マイナス金利の影響で来年より保険料算出基準の標準予定利率引き下げが来春に行われる予定である。
マナー講師	・10月は社内の困りごと(マナーやメンタルケア)の相談がまばらにある。研修への依頼は春先より少ない。

